

トラウマに対するイメージを用いた心理療法

環境人間学部 井上 靖子



キーワード

トラウマ、心理療法、子ども期の逆境体験(ACE)、母なるものの元型的イメージ

研究概要

本研究では、子どもたちが親子関係における不適切な関わりや虐待等によって、基本的な安心感や安全感(basic security)を十分に体験できず、様々な性格や行動上の問題を引き起こしていることに焦点をあてる。いわゆる子ども期の逆境体験(ACE Adverse Childhood Experience)が、その後の人生での低学歴、病気、失業、貧困、孤立、次世代の子どもに対する不適切養育に影響すると指摘されている(三谷,2023)。こうした子どもたちが、如何にしてアイデンティティの基底に必要な安心感や安全感を取り戻せるのか、どのような心理支援が必要なのか、特にイメージを用いた心理療法の治療的意義を明らかにすることを目的としている。特に、基本的な安心感や安全感の提供という点で、生死一如、慈愛と破壊を内包する母なるものの元型的イメージ(Great Mother Archetype image)の働きに着目し、心理療法の過程におけるその治癒力を明らかにする。子どもたちが本来の自分を取り戻し、自己実現していける社会の実現を目指す。

アピールポイント

これまで福祉、教育、医療の分野において臨床心理士・公認心理師として現場に関わってきた。昨今、ケアラーバーと呼ばれる児童養護施設退所者が抱えるトラウマのケア、里親家庭に対する心理支援、生きづらさを抱える子どもの心のケアに対する実践研究に力を入れたいと考えている。

応用分野

虐待、暴力、ネグレクトなどのストレスによって、存在基盤が揺らいでいる人々の心理支援、子どもと保護者の居場所づくり、絆づくりを目指した地域心理臨床活動、基本的信頼感、自己肯定感を育むための個人またはグループセラピーの創造